

# WITH YOU

保険情報ペーパー「ウィズ・ユー」

## 万全ですか？ 住まいの防犯対策

1日約215件の侵入窃盗  
自分の安全は自分で守る

長く日本は「世界一安全な国」を誇ってきましたが、身近な犯罪への不安は増し、その手口も巧妙化しています。ひったくりや自転車窃盗などの街頭犯罪、空き巣などの住宅侵入犯罪、振り込め詐欺や万引きなど、私たちのまわりでは、日常生活の安全を脅かすさまざまな犯罪が、毎日のように発生しています。

警察庁の統計によると、刑法犯の認知件数自体は、近年減少傾向にあります。それでも平成22年中の刑法犯認知件数は約158万件にのぼっており、治安が良いとされた昭和40年代（120万件前後で推移）と比べると、約1.3倍です。とくに、安らぎの場であり、一

番安心して暮らせるはずのわが家の安全を脅かす住宅侵入犯罪は、治安に対する不安を高める大きな要因となっています。平成22年中の侵入窃盗認知件数は13万6,552件。そのうち住宅を対象とした侵入窃盗は7万8,592件あり、1日に約215件もの被害が発生しています。最も多い手口は、窓からガラスを破っての侵入です。

大切な家族と財産を守るためには、やはり「自分の安全は自分で守る」という防犯意識が基本となります。いま一度、住まいの防犯対策の点検、見直しをお願いします。

具体的には、在宅時でも出入り口や無人の部屋の窓にカギをかける習慣をつけることはもちろん、建物の周囲を整理整頓し、侵入されにくい環境にすることが重要です。長



期間、留守をするときは、隣近所へ声をかけ、郵便物・新聞などの配達も止めるようにしてください。

また、「防犯ガラスへの交換や防犯フィルムの貼り付け」「玄関ドアはツーロック、窓に補助錠を取り付ける」「玄関ドアの内側にサムターンカバーを取り付ける」「人が近づくと点灯するセンサー付きライトの設置」など、防犯機器を活用することで、侵入犯罪の抑止に効果があります。

お客様へのメッセージや情報、代理店のPR、おすすめしたい商品等を入力して下さい。

昭和56年から死因の第1位 3人に1人が“がん”で亡くなる

# 日本人の2人に1人が“がん”に！

## 医学の進歩で治る病気に 定期的な検診で早期発見

“がん”は、昭和56年から死因の第1位となり、今では3人に1人が“がん”で亡くなっています。また、国立がん研究センターがん対策情報センターの推計によると、一生涯のうちに何らかの“がん”になる確率は、男性で54%、女性で41%とされ、日本人のおよそ2人に1人は“がん”になるといわれています。日

本人にとって“がん”は「国民病」といっても過言ではありません。

厚生労働省の「平成22年人口動態統計」によると、年間の死亡数は119万7,012人、そのうち「悪性新生物（がん）」が原因で亡くなったのは、男性が21万1,435人、女性が14万2,064人、合わせて35万3,499人で、死亡数全体の29.5%になっています。次いで「心疾患（心臓病）」18万9,360人、「脳血管疾患（脳卒

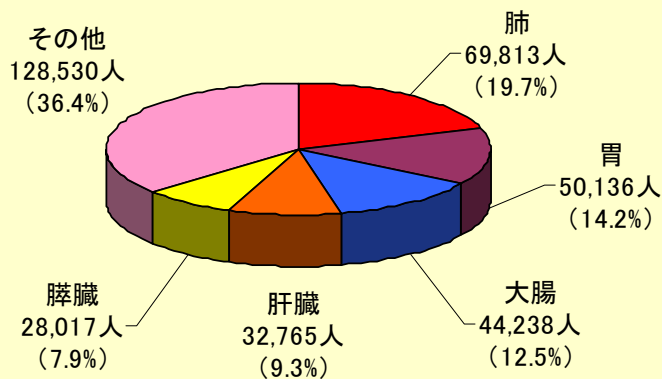
中）」12万3,461人で、これらの三大生活習慣病が死因の6割近くを占めています。

“がん”の部位別にみた死亡数で最も多いのは、「肺」（6万9,813人）で、「胃」（5万0,136人）、「大腸（結腸と直腸）」（4万4,238人）が続いています。男性では「肺」（5万0,395人）、女性では「大腸」（2万0,317人）がそれぞれ第1位となっています。

“がん”は遺伝するといわれていますが、実際は遺伝よりも、喫煙や食生活、運動などの生活習慣が原因であることのほうが多いとされています。しかし、発がんリスクを下げるため生活習慣の改善に心がけたとしても、“がん”に罹るリスクをゼロにすることはできません。そこで重要になるのが「がん検診」です。

医学の進歩などによって、今では“がん”も治る病気になっており、とくに進行していない初期の段階で発見し、適切な治療を行うことで、非常に高い確率で治癒するといわれています。だからこそ、定期的に検診を受けることが大切なのです。

がんの部位別にみた死亡数 厚生労働省「平成22年人口動態統計」



お客様へのメッセージや地域情報等を、ご自由に入力してください。

### ●あなたのパートナー

保険情報サービス株式会社

〒120-0005

東京都 足立区 綾瀬 3-16-4 とうしんビル3F

TEL : 03-5682-7070 FAX : 03-5682-7071